

令和4年度  
学校だより

令和4年  
12月23日

# しおかぜ

佐渡市立  
高千小学校

「思いやりと信念をもって根張れる子」を実現を目指す学校

No. 10

## 「まだまだ」です

校長 白澤 道夫

本日、2学期（80日間）が「修了」しました。

「2学期に伸びる」といわれる子どもたちの成長は、予想以上でした。「言葉の力」の向上を背景に、いきいきと「自分らしさ」を表現する子どもたちの姿に感動しました。

一方、学校において、子どもたちの学びを支える我々教職員はどうだったのでしょうか。

私事ですが、記録的な積雪に見舞われた先日、走行していた愛車の排気管（マフラー）が悪路による揺れと振動のため、外れてしまいました。（32万kmを超えていますので…。）そこで、自動車整備業に詳しいスクールガードリーダーの服部さんのご紹介で、「とある自動車整備工場（個人経営）」に修理を依頼しました。

おそらく私よりも相当年上と思われる社長さん（Sさん）は、工場でゆっくりと落ち着いた様子で、車を機械で持ち上げ、破損箇所をじっくりと観察しています。

すると、おもむろに「これは、溶接（一般的な修理方法です。）じゃ直らないね。」と私に告げたのです。私は、「そうですね。」とは返答したものの、心中は「どうしたらいいのか…。」と困惑していました。

ふと、Sさんに目を移すと、何やら部品を集め作業をしています。

しばらく眺めていると、用意した部品を加工しながら修理箇所に施工し始めました。

多少なりとも自動車整備の知識や経験がある私なのですが、どんな修理方法・工程なのか、全く想像がつかないまま、その様子を「直せるのか？」と半信半疑で見守りました。

それから20分間程が過ぎ、ようやくその修理方法に気付いた私は、思わず叫びました。

「わ！！すごい！本当にすごい！！ どうしてこんな方法が思い浮かぶの？」

（修理方法は、紙面の都合上省略しますが、結論をいうと、破損箇所は修復されました。）

Sさんは、笑みを浮かべながら、こう答えたのです。

「ずっと長く（この仕事を）やってるからな。他の整備業者じゃ思い付かないだろ？」修理方法について、その考え方（理論）を交えながら、実に快活に話すSさん。脱帽です。

愛車を運転しながら帰途についた私は、今回のことを思い返してみました。

Sさんのすごさは、単に経験からくるものではない「空間認知力」を交えた「思考・判断力」の高さです。しかも短時間で、思考・判断し、実行する「即時性」も備えています。

「知識や技能は、思考や判断、表現があってこそそのものだ」と思い知らされました。

実は、感嘆している私の中で、もう一つ、違う感情がありました。それは「奮起」です。

世の中には、年齢や性別等に関係なく「すごい人」は沢山います。そのような方々と比べれば、私は「まだまだ」な存在です。今後も、「教育に携わる者」として、問いをもち、教えを請いながら、学び続けていこうと気持ちを新たにすることができました。

年末に、よい出会いと大きな学びを得ることができたことに、とても感謝しています。

当校にかかわっていただいている全ての皆様、どうぞよい年末年始をお過ごしください。